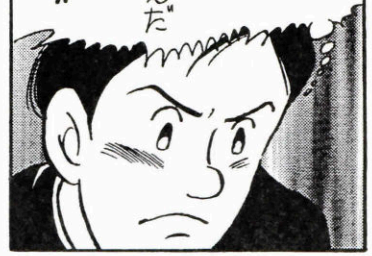


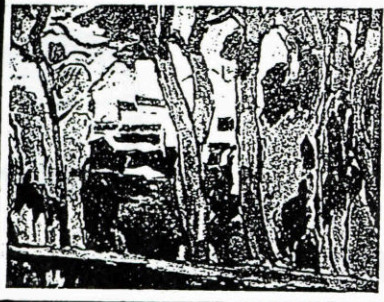
なにを  
言うか!

俺は  
俺の絵が  
描きたいんだ  
今に  
みてろ!!



香月泰男の  
描きたい絵とは  
どんなもの  
でしょう

美術学校に  
入るまでの泰男は  
ヴラマンクの  
ブルーの使い方に  
あこがれて  
いました



ヴラマンクの  
ブルーは  
はげしく  
叫びたてる  
ようだ



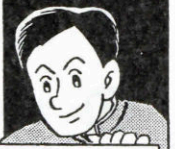
明るく  
しかも  
あくまで  
冷たい

見るものを  
狂気の淵に  
さそいこむ  
ようだ



入学後は  
ゴッホの  
「ブルシアン・ブルー」に  
魅かれ……

更に  
ゴッホを  
通して  
浮世絵  
特筆に  
関心を  
示し



その後  
梅原龍三郎に  
傾倒して  
いきます



また一方で  
ピカソも研究  
していました

20代前半  
この頃は後の  
香月様式を確立  
するための  
模索の時期でも  
あったのです

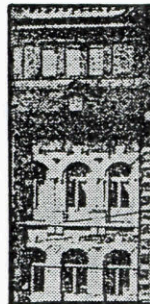
俺が考えている  
方向を  
目指しているのは  
国画会だ

国画会の  
リキタリ  
梅原龍三郎の  
絵には  
ひかれるものが  
ある

梅原への傾倒は  
泰男の描く絵が  
だんだん梅原の絵に  
似てくるほどでした

昭和8年(一九三三年)  
二年生のとき

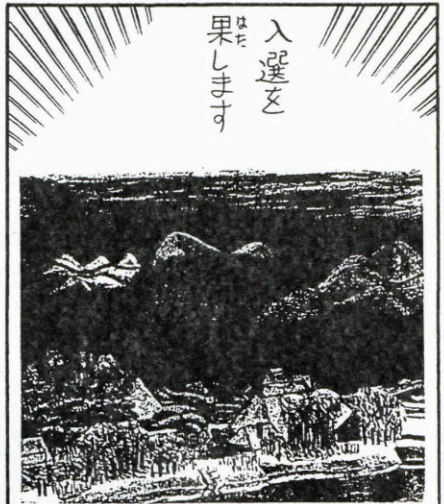
国画会第8回展に  
二十号の風景画  
「雪降りの山陰風景」を  
はじめて出品しますが……



落選……

翌昭和9年(一九三四年)  
国画会第9回展に  
同題の作品を出品

入選を  
果します



「雪降りの山陰風景」20号 1934年

このときの入選は  
梅原龍三郎と  
福島繁太郎の  
責任推薦による  
ものでした

梅原の評価は

筆丈で  
素直に  
独自のものを  
強く表現  
している  
魅力ある  
作品だ!

以後 泰男は毎年  
入選をつづけます



昭和11年  
(一九三六年)  
国画会  
第11回展  
入選



昭和11年  
3月  
泰男は  
東京美術  
学校を卒業  
します  
卒業制作は  
「自画像」と  
「二人座像」



藤島武二の  
目にもとまり

う……ん  
67番の  
成績だったそうです

へ以下次号へ